



『田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト』
RiceBED (Rice-paddy Biodiversity Enhancement Decade)

主な活動内容

- 田んぼの生物多様性を多様な地域の多様な人々の参加によって向上させ、地球規模で普及させることを目指しています。
- 国際条約であるラムサール条約 (X.31) や、生物多様性条約 (X/34) の、水田の生物多様性に関する決議がめざす取り組みを、現場で展開するために、
- 「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」を立ち上げ、
- 国内でその主流化をめざし、それを基盤としつつ、
- 国際的には、水田稲作が普及しているアジア、アフリカ、中南米での活動の拡大とネットワーク化に向けた国際的な活動も行っています。

2018.02.17-18 にじゅうまるCOP3 無断転用禁止



NPO法人ラムサール・ネットワーク日本 (RNJ)



2016 & 17年度の主な活動成果

【国内活動】

- ・全国大会、2回開催；川越市、東京。
- ・地域交流会、4回開催；大湊村、いすみ市、小田原市、津幡町。
- ・専用WEBサイトを構築。参加者間の交流に活用(日本語版 & 英語版)。
- ・参加登録者が200団体・個人を越えた。
- ・田んぼ便りを定期発行配布(3-4回/年)。
- ・MLリストでの情報発信共有。
- ・コナギを愛でて食べる会、5回開催；宮城、秋田、神奈川。
- ・TTP(田んぼを食べるプロジェクト)の立ち上げ。
- ・第4回ICEBA(生物の多様性を育む農業国際会議)；企画、講演、分科会；2017年8月26-28日。
- ・宮城県生物多様性地域戦略推進会議参加(継続)
- ・にじゅうまるCOP3(国学院大学)；2018年2月17-18日



【国際的活動】

- ・生物多様性条約COP13:【2016年12月、カンクン、メキシコ】
日本政府との共催・協力で公式サイドイベントを開催、活動を発信。
関連サイドイベント等で活動を発信(UNDB Day, 先住民サミットなど)
関連国関係者と意見交換；ケニヤ、ベニン、コスタリカ、ネパール、
ウガンダ、FAO、イランなど
- ・アジア、アフリカ、中南米関係者と、意見交換、情報共有。
- ・ウガンダ、コスタリカ関係者の日本(蕪栗沼)視察受け入れと意見交換。
- ・ウガンダ、韓国、フィリピンでの水田の生物多様性関連のシンポジウム等での講演、現地調査などを実施。
- ・国際ネットワーク化への共通理解を深め、賛同者の増加をめざした。





田んぼ10年プロジェクト (Rice BED Project) (海外活動関連; 2016~)



国際的なネットワークづくり

- ウガンダ関係者との意見交換 (2016年8月、小山市)
- 生物多様性条約COP13:(2016.12. メキシコ):水田サイドイベント(ネパール、韓国、ウガンダ、FAOなどからの報告・議論)
- フィリピン関連;
 - 田んぼの生きもの調査と講演(NW Univ. & CS Univ.):2016.10.
 - 第4回日本/フィリピン国際ワークショップ参加;2017.2.(能登;イフガオ関連)
- インドネシア(WI インドネシア)との意見交換
- ラムサール条約アジア地域会合での交流(予定:2018.2-3. スリランカ)

【JICAとの協働】

- コスタリカから蕪栗沼視察・意見交換(参加型生物多様性保全研修会):2016.6.
- ウガンダでの水田視察と水田決議シンポジウム開催参加講演:ウガンダ, 2016.10.
- ウガンダ農業畜産水産省高官、蕪栗沼視察・意見交換:2017.7.
- イフガオ里山マイスター養成プログラムと交流開始:2017.11.~

にじゅうまるプロジェクトの今後に向けて

田んぼ10年プロジェクト⇒2020:宣言と提言



- 愛知目標とリンクした水田目標の達成程度を検証し、より多くの目標達成をめざします。
- 国内での取り組みを中心に、水田と関わりが深い、アジア(韓国、フィリピンなど)、アフリカ(ウガンダなど)、中南米(コスタリカなど)とのネットワークを拡大し、「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」のグローバル化をめざします。
- 地域交流会、全国集会の開催などを行い、登録活動数を200から倍増。
- 活動のすそ野を広げて、田んぼの生物多様性向上の主流化をめざします。
- 新たに作成した日本語版と英語版のHPを活用し、より有効な普及啓発活動を国内外でめざします。
- 水田を軸とした流域の一次産業のネットワークづくりを支援し、生物多様性を基盤とした循環型地域づくりへの貢献をめざす。
- 田んぼの豊かな生きものを、農業資源、食料資源、環境資源として再認識し、その持続可能な利用をめざします。
- 2020年以降も「新・田んぼ10年プロジェクト」(仮称)を継続します。